

2009年8月6日

各 位

株式会社 高松コンストラクショングループ

「週刊ダイヤモンド」当社関連記事について

週刊ダイヤモンドの2009年6月6日号でゼネコン・不動産に関する特集が生まれ、その中に「経営危険度 上場建設191社ランキング」が掲載されています。当社および連結子会社の青木あすなろ建設株式会社は危険度が高くランクされていますが、当社の考え方は下記のとおりであり、健全度で上位にランクされるものと考えております。

記

1. ダイヤモンド社 掲載ランキング

- 1) 当 社 : 総合得点 40.3点 (危険度 ランク 28位/191社中)
- 2) 青木あすなろ建設株式会社 : 総合得点 30.9点 (15位/191社中)

2. 本記事の指標について

当社は、支払手形を振り出さずに現金で支払いを行っています。これにより仕入原価を低減し、利益を生み出そうとするわけですが、これは、当社が永年の蓄積により多くの現預金を持っているからできることであり、真に健全な会社しかできないやり方です。

今回のダイヤモンド社の指標において、当社のこのようなやり方がどのように捉えられるかという点、次のように評価されます。まず、当社は現金で支払いを行うため、営業キャッシュフローは減少傾向となりますが、これはマイナス評価となります。支払手形を発行しないことで運転資金がたくさん必要となりますが、これもマイナス評価となります。

このように当社の支払手形を振り出さずに現金で支払うやり方は、ダイヤモンド社の評価においては単純に危険度が高いという評価となってしまいます。ダイヤモンド社の指標は、当社の健全な財務内容と多くの現預金を保有する、過去の蓄積に裏付けられた実力は評価されないどころかマイナス評価となる指標です。

客観的に見ても、内部留保も取込んだ指標が不可欠であります。その結果、次の試算を見れば当社は健全度で上位に位置することは明らかであります。

なお、高松コンストラクショングループが同業他社並みに支払手形を発行（業界平均：月商の1.2ヶ月相当分）した場合を試算しますと、健全度で大きく上位にランクアップする結果となります。別紙をご参照願います。

また反対に、健全度が上位にランクされた会社が、当社と同様に支払手形の発行をやめ現金支払に切替えたとした場合、危険度ランキングが大幅に悪化します。（当社の試算では、150位以上もランクダウンする例もありました。）

以上

本件に関するお問い合わせ先

経営管理本部 TEL : 06-6303-8101

2009年8月6日

株式会社高松コンストラクショングループ 御中

大阪府中央区本町二丁目3番9号 JPS本町ビル5階
株式会社グローバル・コーポレート・コンサルティング

代表取締役 税理士 下川浩司
公認会計士 税理士 五島 元
公認会計士 税理士 佐野信行
公認会計士 税理士 今野貴史
公認会計士 阪田健司

貸借対照表は財政状態を示し損益計算書は経営成績を示すものですが、貸借対照表は期末日一時点の状態を表し、損益計算書は過去1事業年度のみ成績を表しております。そのため、一般的に企業の評価を行う場合には、過去数期間の財政状態や経営成績だけでなく、将来予測などの定量的判断に加え、その企業を取り巻く経営環境や企業戦略・組織風土などの定性的判断も考慮することが重要であります。

また、財務数値を用いての企業間比較を行う場合には、業態の類似性や企業規模に加え、会計処理方針や財務方針などを十分に考慮して判断する必要があり、複数年度の傾向等も踏まえる必要があります。

株式会社高松コンストラクショングループは現預金が40,638百万円(2009年3月末)を有し、支払手形も発行していないため、もし仮に2009年3月期中に財務方針を変更し、業界平均のサイトでの支払手形を発行していたならば、「週刊ダイヤモンド6月6日号」の記事にあるランキングは、会社記述のとおり、変更初年度となる平成21年3月期においては大幅な順位改善があるものと考えられます。

これは支払手形を発行していない青木あすなろ建設株式会社にも同様に当てはまることであると考えられます。

上記の見解は、弊社内の公認会計士及び税理士数名により検討した結果を示しております。

<試算：当社が支払手形の発行額を建設業界の平均(月商の1.2ヶ月相当)とした場合>

	高松コンストラクシヨングループ		
	ダイヤモンド 掲載データ	支払手形発行	
		当社試算	効果
営業キャッシュフロー対売上高比率			
営業キャッシュフロー(百万円)	△ 4,433	13,925	18,358改善
売上高(百万円)	183,580	183,580	---
営業CF対売上高比率	△2.41%	7.59%	+10.00%
評点(30点満点)	9.33点	22.78点	+13.45点
必要運転資金月商倍率			
必要運転資金(百万円)	35,913	17,555	18,358減少
月商(売上高÷12)(百万円)	15,298	15,298	---
必要運転資金月商倍率	2.35ヶ月	1.15ヶ月	△1.20ヶ月
評点(40点満点)	5.89点	16.73点	+10.84点
有利子負債月商倍率			
有利子負債(百万円)	13,051	0	残高0に
月商(売上高÷12)(百万円)	15,298	15,298	---
有利子負債月商倍率	0.85ヶ月	0.00ヶ月	△0.85ヶ月
評点(30点満点)	25.11点	30.00点	+4.89点
総合点	40.33点	69.51点	+29.18点
評価ランク(経営危険度)191社中	28位	162位	134位改善
”(健全度)191社中	164位	30位	

試算について:

ダイヤモンド社の算出方法に基づき、当社が試算したものです。
(なお、営業キャッシュフローの支払手形発行の効果は初年度のみです)

ダイヤモンド社の算出方法:

上記の3つの指標の数値について最高値を満点、最低値を0点として按分して得点化し、総合得点(100点満点)の低い順にランキングが作成されています。ただし、各指標の最高値、最低値は上位5%と下位5%が除外されます。

当社試算について

当社は現在支払手形を発行していませんが、これを当社月商の1.2ヶ月分について支払手形を振出したとして試算しました。

売上高 183,580百万円 / 12 × 1.2 = 18,358百万円 (なお、1.2ヶ月は主要ゼネコン23社の平均値です)

これにより、同額の現金での余剰が生まれます。

当社における試算過程を説明する上で、以下のように表記しています。

- ① 上限値 = 各指標における、ダイヤモンド社ランキングの上位5%(=9社)を除いた、10社目に相当する会社の数値
- ② 下限値 = 各指標における、ダイヤモンド社ランキングの下位5%(=9社)を除いた、10社目に相当する会社の数値
- ③ 全体レンジ = 上限値と下限値の幅の数値
- ④ 当社の位置 = 当社の比率の全体レンジでの位置。下限値から上限値までのどこに位置するかを示す

<営業CF対売上高比率>

上限値 = 12.95%	下限値 = △9.35%	全体レンジ = 22.30
--------------	--------------	---------------

$$\text{当社比率} = \frac{\text{営業CF}}{\text{売上高}} \quad \text{当社の位置} = \frac{\text{下限値} - \text{当社比率}}{\text{全体レンジ}} \quad \text{当社評点} = \frac{\text{当社の位置}}{\text{全体レンジ}} \times 30 \text{点}$$

当社試算	営業CF	ダイヤモンド	当社試算	当社評点
支払手形を月商の1.2ヶ月分(18,358百万円)発行すると仮定。その分現金が残り、営業CFが改善。	△4,433	$\frac{\Delta 4,433}{183,580} = \Delta 2.41$	$\frac{9.35 - 2.41}{22.30} = 0.311$	$0.311 \times 30 \text{点} = 9.33 \text{点}$
	+18,358	$\frac{13,925}{183,580} = 7.59$	$\frac{9.35 + 7.59}{22.30} = 0.759$	$0.759 \times 30 \text{点} = 22.78 \text{点}$
	13,925			

<必要運転資金月商倍率>

上限値 = △1.43ヶ月	下限値 = 3.00ヶ月	全体レンジ = 4.43
---------------	--------------	--------------

$$\text{当社比率} = \frac{(\text{受取手形} \cdot \text{完成工事未収入金}) + (\text{未成工事支出金}) - (\text{支払手形} \cdot \text{工事未払金}) - (\text{未成工事受入金})}{\text{月商}} \quad \text{当社の位置} = \frac{\text{下限値} - \text{当社比率}}{\text{全体レンジ}} \quad \text{当社評点} = \frac{\text{当社の位置}}{\text{全体レンジ}} \times 40 \text{点}$$

受取手形・完成工事未収入金=72,319、未成工事支出金=6,858、支払手形・工事未払金=35,244、未成工事受入金=8,020

当社試算	必要運転資金	ダイヤモンド	当社試算	当社評点
支払手形を18,358百万円発行すると仮定。その分支払手形が増加し、必要運転資金は減少。	35,913	$\frac{35,913}{15,298} = 2.35$	$\frac{3.00 - 2.35}{4.43} = 0.147$	$0.147 \times 40 \text{点} = 5.89 \text{点}$
	△18,358	$\frac{17,555}{15,298} = 1.15$	$\frac{3.00 - 1.15}{4.43} = 0.417$	$0.417 \times 40 \text{点} = 16.73 \text{点}$
	17,555			

<有利子負債月商倍率>

上限値 = 0.00ヶ月	下限値 = 5.23ヶ月	全体レンジ = 5.23
--------------	--------------	--------------

$$\text{当社比率} = \frac{(\text{短期借入金}) + (\text{長期借入金}) + (\text{その他})}{\text{月商}} \quad \text{当社の位置} = \frac{\text{下限値} - \text{当社比率}}{\text{全体レンジ}} \quad \text{当社評点} = \frac{\text{当社の位置}}{\text{全体レンジ}} \times 30 \text{点}$$

短期借入金=12,060、長期借入金=791、その他=200

当社試算	有利子負債	ダイヤモンド	当社試算	当社評点
支払手形を18,358百万円発行すると仮定。その分借入を減らすことができ、有利子負債残高(13,051百万円)がゼロに。	13,051	$\frac{13,051}{15,298} = 0.85$	$\frac{5.23 - 0.85}{5.23} = 0.837$	$0.837 \times 30 \text{点} = 25.11 \text{点}$
	△13,051	$\frac{0}{15,298} = 0.00$	$\frac{5.23 - 0.00}{5.23} = 1.00$	$1.00 \times 30 \text{点} = 30.00 \text{点}$
	0			